

第58回神奈川建築コンクール 一般建築物部門 最優秀作品選評「マークイズみなとみらい」

審査委員 福井 通

本施設は「横浜みなとみらい 21 中央地区」の横浜美術館とグランモール公園の正面に位置し、地下ではみなとみらい駅に直結した地区中心部に新設された複合商業施設である。計画地はアーバンデザイン的に重要な立地で、地区計画で土地利用、地区施設、建築物等の整備方針が定められ、建築形態、景観・まちづくり等が規定されている。

このような建築計画のみならず都市設計的課題も多い環境条件を適切に分析し、「用がなくとも行ってみたいくなる心地よい場所」をテーマに、グランモール公園と一体的に計画された「立体都市公園」のコンセプトにより、快適な都市型環境複合施設を実現した点が高く評価され、最優秀賞に選定された。

施設へのメイン・アプローチは美術館に面したグランモール公園側中央部にある。公園に面した足もと周りは街路樹の植え替え、ソフト・カフェ開催等、横浜市とのコラボレーションにより都市的アクティビティを演出するなど、パブリック空間への配慮が見られる。中央部は美術館側から海側に抜ける都市軸を意識した空間構成で、内部のグランドギャラリーでは自然光が降り注ぐ三層の吹抜けを上階に上がるにつれ街路樹の緑や施設内のパティオ、テラスの緑を感じながら立体都市公園の象徴である「こもれびルーフ」と果樹園・菜園のある屋上庭園にたどり着くよう演出されている。

施設の高さは美術館との関係で低く押さえ、ファサードはスタッキング(積み重ね)構成によりヒューマン・スケールの空間を分節し、工夫された夜間照明による夜景の演出も含め都市景観的效果をあげている。

もう一つのアプローチは地下4階のみなとみらい駅から直接入ることができる。改札のレベルはかつて海底であった記憶を喚起する「深海・地層」のイメージでデザインされ、上層へと導かれる。内部共用空間のところどころに親密なシーティング・スペースを多数設け、そこに美術館とのコラボ・アートも取り入れる等、多様な顧客層に対応した快適なコモン空間を創り出してしている。